

Minami Kyushu University Junior college Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	国際教養学科				
科目名称	経営学					授業形態	講義		
科目コード	531190	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	出山 実							ICT活 用	
授業概要	<p>本講義では、持続可能性が求められる現代の企業経営のあり方を学習する。そこで、本講義は、次のような問いをもって講義を進めていくことにする。①持続可能性のような複雑な課題にどのように向き合うのか？、②持続可能性を構成する個々人の基本的なニーズとは何か？、③持続可能性を実現するための基本的な原理・原則とは何か？、④持続可能性に資する基本的な経営学の理論とは何か？、⑤持続可能性に向けたビジネスモデルの作り方とはどのようなものであるか？である。持続可能性の課題は多くの場合、正解があるものではなく、受講者が対話をしながら模索していくものである。そこで、本講義では、対話の方法論（ダイアログの原理）についても随時学んでいくことにする。</p>								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	<p>講義の方法は、教員による基本的な知識の教授をベースとして、受講生の方々には対話型のアクティブラーニング方式を取り入れた多様な学びを展開する。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>1. オリエンテーション（対話の方法論） 初回は、オリエンテーションとして、本講義の目的と概略について紹介する。また、本講義で重視する対話の方法論（ダイアログの原理）について学ぶ。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>2. 複雑な課題への向き合い方① 本講義の問いの1つ目である「持続可能性のような複雑な課題にどのように向き合うのか？」について学ぶ。本講義では、複雑な課題を理解するために、「カネビンフレームワーク」を用いて課題の性質を学習する。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>3. 複雑な課題への向き合い方② 前回に引き続き、本講義の問いの1つ目である「持続可能性のような複雑な課題にどのように向き合うのか？」について学ぶ。本講義では、学生たちが持ち寄った課題（身近な困ったことを課題として）について、「カネビンフレームワーク」に当てはめながら課題の性質を理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>4. 持続可能性と経営学①（人間の基本的ニーズ） 本講義の問いの2つ目である「②持続可能性を構成する個々人の基本的なニーズとは何か？」について学ぶ。本講義では、基本的ニーズについて、「マックス＝ニーフのニーズ論」を採用し、個々人のニーズ、組織としてのニーズ、社会としてのニーズについて学習する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>5. 持続可能性と経営学②（自然原則） 本講義の問いの3つ目である「③持続可能性を実現するための基本的な原理・原則とは何か？」について学ぶ。持続可能性に関する定義は多々あるが、本講義では「ナチュラルステップの持続可能性原則」を取り上げる。第5回では、自然原則（エンバイロメンタル・サステナビリティ）の理論的背景と原則そのものについて学習する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>6. 持続可能性と経営学③（社会原則） 本講義の問いの3つ目である「③持続可能性を実現するための基本的な原理・原則とは何か？」について学ぶ。持続可能性に関する定義は多々あるが、本講義では「ナチュラルステップの持続可能性原則」を取り上げる。第6回では、社会原則（ソーシャル・サステナビリティ）の理論的背景と原則そのものについて学習する。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>7. 持続可能性と経営学④（商品・製品のライフサイクルアセスメント） 本講義の問いの4つ目である「④持続可能性に資する基本的な経営学とは何か？」について検討する。本講義では、商品や製品の持続可能なライフサイクルを構築するための枠組みである「戦略的ライフサイクルアセスメント（SLCA）」を用いる。第7回は、「戦略的ライフサイクルアセスメント（SLCA）」の基本的な部分を学び、実例とともに検討する。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>8. 持続可能性と経営学⑤（学生発表の回） 第7回で説明した「戦略的ライフサイクルアセスメント（SLCA）」を用いて事例検討をする。学生たちは、自分でまとめた事例検討を報告する。学生たちの報告から、数例を抜粋して、クラスで話し合いを実施する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>9. 持続可能性とビジネスモデルキャンパス①（基礎理論） 本講義の問いの5つ目である「持続可能性に向けたビジネスモデルの作り方とはどのようなものであるか？」について学ぶ。本講義では、ビジネスモデルキャンパスの各項目（マーケティング、マネジメント、会計）と活用方法を説明する。</p>								

授業計画【第10回】	10. 持続可能性とビジネスモデルキャンパス②（事例検討） 第9回の講義を受けて、ビジネスモデルキャンパスを活用して、企業の事例検討を行う。本講義では、教員が事例として用意した宮崎の企業を対象に、ビジネスモデルキャンパスに落とし込む練習を実施する。
授業計画【第11回】	11. 持続可能性とビジネスモデルキャンパス②（事例検討） 第9回、第10回の講義を受けて、ビジネスモデルキャンパスを活用して、企業の事例検討を行う。本講義では、学生たちが選んだグローバルな企業を対象に、ビジネスモデルキャンパスに落とし込む練習を実施する。
授業計画【第12回】	12. 持続可能性とビジネスモデルキャンパス③（学生発表の回） 持続可能な経営モデルをビジネスモデルキャンパスにまとめる。学生たちは、自分でまとめた事例検討を報告する。学生たちの報告から、数例を抜粋して、クラスで話し合いを実施する。
授業計画【第13回】	13. 持続可能性に向けたビジネスモデルキャンパスを検討する①（グループ学習、対話形式） 身近な企業を取り上げて、持続可能性原則を活用しながら、持続可能性を高めるようなビジネスモデルへの変革を検討する。本講義は、特にソーシャルサステナビリティに注目する。講義の進め方は、グループでの対話形式で実施する。
授業計画【第14回】	14. 持続可能性に向けたビジネスモデルキャンパスを検討する②（グループ学習、対話形式） グローバルな企業を取り上げて、持続可能性原則を活用しながら、持続可能性を高めるようなビジネスモデルへの変革を検討する。本講義は、特にエンバイロメンタルサステナビリティに注目する。講義の進め方は、グループでの対話形式で実施する。
授業計画【第15回】	15. 本講義のまとめ 本講義での学びのまとめと、振り返りを実施する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能性と経営学の基礎的な知識を理解することができる。 ・企業の活動を俯瞰して、ビジネスモデルとして捉えることができる。 ・持続可能性に向けたビジネスをしていく上で、原理原則に基づいて、必要となる改善案やビジネスアイデアを生み出すことができる。 ・対話の基本的なスキルを理解している。
学修成果との関連	3. 現代社会に関する基本的知識を有する。
授業時間外学習【予習】	講義に関する事前の調べ学習、資料の読み込みを課す（1時間）。
授業時間外学習【復習】	講義に関する振り返りシートの記入を課す（30分）。
課題に対するフィードバック	課題発表に対するフィードバックと試験終了後解説を行う。
評価方法・基準	期末試験（50%）、参加度と課題発表（50%）
テキスト	
参考書	講義時にプリントを配付する。
備考	